

第10回 国際家族看護学会 大会長 メッセージ

国際家族看護学会は、1988年に第1回学術集会在カナダで開催され、以後、北米、北欧、南米、アジア、アフリカと2年～3年ごとに、世界数十カ国の家族看護に関心のある研究者や臨床家達が集まり、それぞれの実践や研究成果を発表し、交流を深めてきた歴史ある学会です。

2009年6月には、アイスランド・レイキャヴィックで、国際家族看護協会(International Family Nursing Association)が設立され、一層の基盤強化が図られています。

家族は社会の基本構成単位であり、次世代を担う重要な機能と役割を持ちますが、家族員の疾病や障がいなどによって容易に機能障がいを起こしてしまうものでもあります。価値が多様化し、家族の形態も変化している今日、家族を支え、家族の問題解決に寄与し、家族の健康的な成長発達を促す看護職の役割はますます重要になってきています。

今回は、テーマを「家族看護の可視化」といたしました。WHOの取り組みをはじめ、各国、さまざまな地域で展開される、すばらしい家族看護の実践や研究成果を知り、経験を共有し、今度はそれを用いて、もっと地域の人々の健康増進にかかわれるようになれたらと考えております。

プログラムの内容は多岐にわたり、地域から医療機関、予防からターミナルケア、母性・小児領域から成人老年、学校保健、地域看護まで幅広い領域からの発表と、特に今回はアジア各国からの家族看護の実践報告も用意されています。また、家族看護の世界のエキスパートからの講演や研修も準備いたしました。初心者用に、家族看護の概略が学べるような企画もいたしました。家族看護に関心のある各国の臨床家や研究者との交流を是非ともお楽しみください。

今回は、日本の文化も新たに学べたらと、仏教文化とスピリチュアリティに関する講演なども織り込みました。

1200年余の歴史をもつ日本の古都、京都を堪能していただければと思います。

第10回国際家族看護学会
大会長 森山 美知子
(広島大学大学院保健学研究科)

交通アクセス



JR京都駅に連絡した地下鉄丸線京都駅より20分、「国際会館駅」下車、徒歩5分。

演題登録 通訳・翻訳の支援有り

発表は、学会員・非学会員を問いません

演題募集期間 2010年8月1日(日)～2010年12月5日(日)

第10回国際家族看護学会では、臨床実践、管理・政策、研究、教育などあらゆる領域において家族のケアに携わる看護職、教育関係者、行政担当者、ヘルスケアに関わる専門職からの演題を募集いたします。発表形式は以下の4つとなります。

1. グループセッション(口演、3-5人程度のグループによる60分から90分の発表)
2. グループセッション(ポスター、3-5人のグループによる発表)
3. ポスター(示説発表)
4. 口演

発表領域

1. 家族看護に関する研究
2. 家族看護に関する教育
3. 母子のヘルスケア
4. 急性期ケア
5. 慢性期ケア
6. クリティカルケア
7. エンドオブライフケア(終末期ケア)
8. 介護者/ケア提供者
9. 精神保健/家庭内暴力
10. 地域看護
11. 家族のヘルスプロモーション・政策
12. 家族看護とテクノロジー
13. 家族看護におけるナレッジトランスファー/
トランスレーション(理論の実践への適用など)
14. その他

詳細はウェブサイトをご確認ください。

<http://www.ifnc2011.org/japan/abstract-submission.html>

参加登録

申込区分 (学会員・非学会員共通)	早期登録 2011年3月10日まで	一般登録 2011年3月11日～学会当日
第10回国際家族看護学会(※1※2)	35,000円	40,000円

※1 同時開催の日本家族看護学会第18回学術集会への参加費を含みます。
※2 国際家族看護学会会員は参加費の引き等の特典があります。
国際家族看護学会会員への申し込みは、ホームページ
(<http://www.internationalfamilynursing.org/>)をご覧ください。

申込区分	事前登録 2011年5月10日まで	当日登録
日本家族看護学会 第18回学術集会のみ	9,000円	11,000円
第10回国際家族看護学会への追加申込(※3)	1日当たり20,000円	

※3 日本家族看護学会第18回学術集会のみの参加者で、1日チケットを購入の場合
※ 日本家族看護学会第18回学術集会の参加費についてはホームページ
(<http://www.familynursing.org/jarfn18/>)をご覧ください。

日本糖尿病療養指導士認定更新のための第1群<看護職>2単位 発表者(筆頭)2単位加算



合同開催:日本家族看護学会第18回学術集会
2011年6月25日(土)～26日(日)

第10回 国際家族看護学会

家族看護の可視化: 知の構築から実践へ

日程 2011年 6月25日(土)～27日(月)

会場 国立京都国際会館(〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池)



日英同時通訳 一部有り

<http://www.ifnc2011.org>

- 主催 日本家族看護学会
- 共催 国際家族看護学会(International Family Nursing Association)
- 後援 厚生労働省 京都府 京都市 (社)日本看護協会 (社)京都府看護協会

今回のメインテーマは、「新しい家族看護学の探求：パラダイムへの原点回帰と未来共創」といたしました。家族看護学は、個人看護学のように「ひと」を対象とするだけではなく、「家族システムユニット」を対象とし、個人看護学とはパラダイムを異にしますので、家族看護学独自の理論・実践・研究が不可欠です。家族看護学が依って立つパラダイムに回帰し、その神髄を論じ合う機会になることを期待します。

学術集会は会員発表の場です。会員皆様からの演題は、「新しい家族看護学」の確立に不可欠なノイエスを創生しますので、活発な質疑応答が行われる場を作りたいと思います。なお、同時開催の国際学会で発表する演題でも、日本語での質疑応答を希望する場合は、本学術集会においても演題登録することができます。また、家族看護学を広く一般市民の方々と共有するために、市民向けの公開講演などを充実させ、情報発信の場にしたいと考えています。つきましては、本趣旨にご賛同いただき、会員の皆様はもとより、多くの方々の参加をお待ち申し上げております。

日本家族看護学会第18回学術集会
大会長 法橋 尚宏
(神戸大学大学院保健学研究科)

学術集会の概要

会 期：2011年6月25日(土)～26日(日)

会 場：国立京都国際会館

メインテーマ：新しい家族看護学の探求：
パラダイムへの原点回帰と未来共創

演 題 募 集：2010年12月10日(金)～2011年2月10日(木)

<http://www.familynursing.org/jarfn18/>

プログラム(予定)

インタラクティブセッション

- ポスターセッション(ポスターを用いた討論の場)
- オーラルセッション(口頭発表による討論の場)
- オーガナイズドセッション(テーマを設定した学術的交流の場)

市民参加型イベント

- 特別放談(著名人が家族について語る場)
- 市民交流講座(市民と家族看護学を語り合う場)
- ナーシングサイエンスカフェ(中学生・高校生と家族看護学を語り合う場)

- | | |
|---------------|----------------------|
| 会長講演 | 杉下知子先生メモリアルセッション |
| 基調講演 | ランチョンセミナー |
| 特別講演 | イブニングセミナー |
| シンポジウム | 企業展示会 |
| 他学会連携ワークショップ | 日本家族看護学会総会 |
| 家族支援チャリティイベント | 表彰式(優秀ポスター賞、優秀オーラル賞) |

国際家族看護学会 会長講演

「遺伝子学を家族看護学研究と教育に統合する」

Marcia Van Riper, RN, Ph.D (ノースカロライナ大学チャペルヒル校、アメリカ)

第10回国際家族看護学会 大会長講演

「苦悩する家族を支援する：プログラム開発と臨床試験」(仮)

森山 美知子(広島大学)

家族看護学会誌(国際) 編集委員講演

「家族看護研究の最新トレンドと論点」

Lawrence H. Ganong, Ph.D(ミズーリ大学、アメリカ)

基調講演

「WHO ヨーロッパ・ファミリー・ヘルス・ナース・プロジェクト」

Bente Sivertsen, RN, MSN
(デンマーク看護婦協会 会長、元WHOヨーロッパ 看護・助産師プログラム 政策アドバイザー)

特別講演

「患者と家族の絆：仏教にみる死と慈愛」

銅島 直樹(龍谷大学)

パネルディスカッション

「家族看護における苦悩とスピリチュアリティ：東洋的視点と西洋的視点」

小西 達也(チャブレン、東札幌病院)
Lorraine M. Wright, RN, Ph.D(カルガリー大学、カナダ)

特別セッション

特別セッション2

「世界における家族看護の優れた実践」

座長：Janice Bell, RN, Ph.D(カルガリー大学、カナダ)
アイスランド、スウェーデン、アルゼンチン、フィンランド他

特別セッション3

「アジア各国での家族看護」

タイ、中国、韓国、香港、ベトナム 他

特別セッション4

「家族看護のアウトカム指標と評価尺度開発」

CEO ラウンドテーブル

「家族看護の新しい方向：家族看護の未来」

From WHO Europe, IFNA, JARFN

メインセッション

教育を通しての家族看護の可視化

メインセッション 1

「家族看護学のカリキュラム構築：学部教育」

メインセッション 2

「家族看護の上級看護実践のための大学院教育方法」

Donna Miles Curry, RN, Ph.D, PCNS-BC(ライト州立大学、アメリカ) 他

政策を通しての家族看護の可視化

メインセッション 3

「家族看護の観点からのプライマリヘルスケア：ヨーロッパのアプローチ」

英国、ドイツ他 交渉中

実践を通しての家族看護の可視化

メインセッション 4

「カルガリー家族アセスメントモデル・介入モデル：家族への関わりの実際」

Maureen Leahey, RN, Ph.D(カルガリー大学、カナダ)
Lorraine M. Wright, RN, Ph.D(カルガリー大学、カナダ)
Sandy Harper-Jaques, RN, MN(カルガリー大学、カナダ)

セッション

「米国での家族看護の成功と挑戦：理論-実践-研究-教育」

Shirley May Harmon Hanson, Ph.D, RN, ARNP/PMHNP, FAAN, CFE, LMFT
Joanna Rowe Kaakinen, Ph.D, RN
Vivian Gedaly-Duff, DNSc, RN
Deborah Padgett Coehlo, Ph.D, RN, PNP(オレゴン健康科学大学他)

「慢性期看護領域の家族看護」

Catherine A. Chesla, RN, DNSc, FAAN
(カリフォルニア大学サンフランシスコ校)他

「家族看護のテキストブックの著者に会おう」

「若手研究者の交流セッション」

「家族療法を学ぼう」

※スクールナース(養護教諭)、産業看護、子育て家族支援プログラム、認知症の家族支援、終末期の家族ケア、クリティカルケア場面での家族ケア、糖尿病の家族ケア、病院での家族看護展開など、多くの講演やセミナーが予定されています。

プレ・カンファレンス 6月24日(金) 会場：キャンパスプラザ京都

- 家族看護の研究計画書の書き方
- 研究方法：解釈学的現象学を用いた家族のナラティブリサーチ
：家族データの質的分析、家族データの量的分析
- 基礎看護教育における家族看護の教育法の実際

